

第3回 兵庫便教会 報告

2014年12月21日（日）、第3回の兵庫便教会を西宮市立浜甲子園中学校にて開催しました。気温の上がない、寒い日でしたが、15名の参加があり、たくさんの学びがありました。

簡単な自己紹介のあと、1Fの男女トイレに分かれて、トイレ掃除の実践をしました。初めての参加という先生が3名いらっしゃったので、道具説明ではトイレ掃除と教育の共通している点などを含んだお話しをしていただきました。あまり時間のない中でしたが、リーダーを中心に拭き上げまで時間内に完了できました。

次に教室へ移動し、教室清掃を体験しました。始めに窓拭きのやり方についてレクチャーを受けました。ワイパーの使い方など実演を交えて教えていただきましたが、印象的だったのは、簡単な手順だけれど、一番難しいのが窓拭きという言葉でした。ワイパーなどはただ引くのではなく、角度がとても重要であるということです。また、誤った掃除のやり方をすると反対に汚くなるのも窓掃除の特徴だそうです。



教室掃除もみんなでやってみました。何よりも端っこが大切だということです。細部にまでこだわることが気づきを生むことにつながるのでしょうか。生徒にも伝えたいと思いました。また、掃き掃除が終わったあとのほうきについているゴミを取ることも教わりました。黒板については、黒板消しという道具が重要だということでした。窓掃除のワイパーもそうですが、掃除では道具一つで意欲が生まれたり、無くなったりするものです。準備をしっかりとっておきたいところです。



最後に感想などを交流しました。掃除にまつわる子どものお話があれば、併せて発表してもらいました。始めは先生だけでやっていた廊下掃除を中学3年の子が手伝ってくれるようになり、その中に不登校の子がいるという話がありました。もしかするとその子は自分の行動（床磨き）が成果として見えることで、自己有用感を感じているのではないかと。そうであれば嬉しいという話をされていました。感情が乱れて落ち着かない子が熱心に掃除をする姿をみて、心動かされたとい

う話もありました。参加者は小学校低学年の担任から高校の担任まで様々でしたが、みなさんの話から掃除の持つ教育の力を改めて感じる事ができました。そして何より、水の冷たさを感じるにより、子どもの心を思うことができました。一段高いところから物を言うことの多い教師は、常に子どもが感じる思いを慮る謙虚な姿勢が大切なのだと、思います。そのために我々自身が身を屈めるべきなのだと思うのです。

今回もたくさんの人に支えられて会を持つことができました。本当にありがとうございました。（文責：木田重果）

